

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	(1) 生徒の個性や創造性を伸ばし、意欲や探究心を高める6年間の一貫した教育課程編成に取り組む。 (2) 思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション能力の育成を図る組織的な授業改善に取り組む。	(1) 創立からの教育課程を検証し、生徒の意欲や探究心を高めるカリキュラム開発を行う。 (2) 「問う力」「アクティブラーニング」をテーマとした研究に学校全体で取り組み、授業改善を図る。	(1) 次期学習指導要領及び大学入試制度改革に関する教員研修会を実施し、情報を共有するとともに、授業時間の確保を含む新たな6年間の教育課程を検討する。	(1) 次期学習指導要領及び大学入試制度改革に関する研修会を実施し、情報を共有できたか。また、新たな6年間の教育課程編成に着手できたか。	(1) 次期学習指導要領及び大学入試改革のための研修会を実施し、全体で情報を共有した。	(1) 今後も、次期学習指導要領及び大学入試改革に関する情報を共有し、対応した教育課程編成を継続して検討する。	・授業時間数の確保は分かるが、生徒の放課後の活動も充実する必要がある。何を削って何を残していくかが大切。 ・夏期講習と部活動が重なる場面がある。可能な限り工夫をする必要がある。	(1) これからの時代に求められる資質・能力について職員で共有できた。一方で、授業時間確保と育てたい力とのバランスに課題が残った。	(1) 授業時間確保と本校がめざす生徒に身に付けさせたい力のバランスを考慮したカリキュラム開発を急ぐ。
			(2) 「言語活動の充実」を図り、生徒の学習意欲を高めるとともに、教育活動全般において、アクティブ・ラーニングによる「問う力」及び「課題解決力」の育成を図る。	(2) 授業の工夫により、生徒の学ぶ意欲を高めることができたか。授業や発表の中で、生徒が主体的に「問う」ことができ、生徒一人ひとりの「思考力・判断力・表現力」を育成することができたか。	(2) どのように学ぶかを「アクティブ・ラーニング」の視点から見直し、教科ごとに研修会を実施するとともに「Study guide」を改訂した。	(2) 「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業研究を、教科ごとに継続して実施していく。			
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	(1) 生徒一人ひとりの特性や抱える課題を見極め、問題解決に向けて、組織的な生徒支援体制を構築する。 (2) 平塚中等生として誇りを持たせ、自覚を促す生活規律を確立し、思いやりの心を持ったリーダーを育成する。	(1) 生徒一人ひとりの課題を迅速に見極め、問題解決に向けて、組織的な支援体制を確立する。 (2) 平塚中等生としての誇りと自覚を持たせ、生徒一人ひとりの規範意識の醸成を図り、思いやりの心を持ったリーダーを育成する。	(1) 教育相談等の面談を通し、生徒一人ひとりの状況を迅速に把握し、適切な支援に取り組む。また、保護者やスクールカウンセラーと連携を密にし、必要に応じて外部機関とも連携し、生徒・保護者を支援する。	(1) 生徒が抱える課題の早期発見に努め、適切にその課題に対応することができたか。	(1) 担任、保護者、学年、養護教諭、スクールカウンセラーと連携し、生徒の抱える課題の早期発見に努め、適切な支援につなげることができた。	(1) 前期課程において、課題や困難に直面し、挫折する生徒も一部いる現状を鑑み、担任の日々の観察を始めとするこれまでの取り組みに加え、何らかの取り組みを導入する必要があると考える。	・学校が丁寧に指導に当たっている姿が伝わってくる。 ・成功例を積み重ね、自己有用感が得られる指導をお願いしたい。	(1) 担任、ライフグループを中心に、生徒一人ひとりの状況を把握し迅速に対応できた。一方で、不登校生徒への対策については課題が残った。	(1) 引き続き、生徒情報共有会、ケース会議の充実を図るとともに、ライフグループの中に、教育相談に特化した前期課程生徒に係る課題に迅速に対応する組織を立ち上げる。結果、不登校生徒に減少をめざす。
			(2) スチューデント・メンターによる活動をさらに活性化し、後期生が前期生を導くことにより、思いやりの心を持ったリーダーを育成する。	(2) スチューデント・メンターの活動内容や活動機会のさらなる充実を図ることができたか。	(2) スチューデント・メンター活動では、自分たちで新しい企画を立案して実行する等、新たな一歩を踏み出すことができた。	(2) 次年度のスチューデント・メンターの人数が今年度より増えることから、活動がさらに活性化するように指導していきたい。			

									今後もより良い指導をお願いしたい。		
3	進進路指導・支援	(1) 多彩な体験活動を通して、豊かな人間性と次世代を担うリーダーを育成するとともに、生徒一人ひとりの進路実現に向けて、生徒が意欲的に取り組めるように支援する。	(1) 6年間の系統立てた多彩な体験活動により、豊かな人間性を備えたリーダーを育てる。 (2) 進路指導の充実により、生徒の目的意識を醸成し、第一希望の進路実現を図る。	(1) 学校行事、委員会活動、部活動などを通して自立した社会観、リーダー性のある生徒の育成を図る。	(1) 翠星祭等の学校行事、委員会活動、部活動等で、生徒が社会性を意識して主体的に活動し、リーダー性を発揮する場面が設定できたか。	(1) 学校行事、委員会活動、部活動等で、生徒が自らの役割を自覚し、主体的に活動すると同時に、その職責を果たす場面が多々見られた。 翠星祭、合唱コンクール等の活動を生徒が主体的に企画・運営し、実施できた。	(1) より多くの生徒が主体的に活動するための働きかけをどうするか、その具体的な方法が今後の課題である。	・アンケートや学校評価を用い、生徒や保護者の要望に真摯に対応しようとしている。 ・アンケートにおける肯定的な回答が多い。否定的に回答している生徒への配慮が必要である。	(1) 学校行事等で生徒が自らの役割を自覚し、主体的に活動する姿が見られた。	(1) アンケートや学校評価における満足度調査に具体的な数値を盛り込み、改善を重ねていきたい。	
				(2) 進路講演会、大学模擬授業、分野別進路説明会、大学キャンパスツアーなど、生徒の希望進路に対応した多彩な学習機会を提供し、各自の将来像を考えさせる。	(2) 進路希望に対応した各種の学習機会に、生徒が主体的に参加できたか。	(2) 実施後のアンケートでは、有意義な機会であるとの意見が多かった。	(2) 生徒の実態や希望に合致した進路関連行事がバランスよく配置できているか、今後も検証していく。	・進路指導室や自学自習システムを整備する等、丁寧な指導により実績をだしている。	(2) 生徒のニーズに対応した進路関係行事を配置し成果をあげた。	(2) 生徒の実態や希望に合致した効果的な進路関連行事がバランスよく配置できているか、今後も検証していく。	
4	地域等との協働	(1) 積極的に情報発信をするとともに、地域との協働を進め、地域・保護者に信頼される学校づくりを推進する。	(1) 地域への情報発信を積極的に行うとともに、地域との連携、行事への参加、交流を推進する。	(1) 地域・保護者と連携した防災への対応準備を行う。	(1) 地域自治会と避難所運営等に関する課題についての確認ができたか。	(1) 自治会の避難所運営マニュアルにより課題について確認できた。 PTA 広報誌に防災特集を掲載し、保護者の理解を深められた。	(1) 今年度は日程の関係で実施できなかった地域の方々との防災訓練に関して、次年度は開催の方向で検討を進めたい。	・学校行事と地域の行事との兼ね合いから、なかなか地域に根付いた防災訓練は難しいと感じる。平塚は関東大震災以来被害にあっていないため、防災に関する意識が低い。 ・障害者や自閉症の人をどのように訓練に取り入れていくかが検討課題である。	(1) 地域行事との関係から地域の方々と連携した防災訓練を実施できなかった。次年度は開催の方向で検討を進めたい。	(1) 早期に地域自治体と連絡をとり、地域と連携した防災訓練を計画する。	
5	学校管理 学校運営	(1) 職員一人ひとりが事故不祥事防止に努め、自校に愛着を持ち、前向きに学校運営に参画することで「チーム学校」を構築する。 (2) 生徒、職員の防災意識の醸成を図り、安全で安心な学校づくりを推進する。	(1) 事故不祥事防止を徹底し、職員一人ひとりが、意欲的に学校運営に参画できる「チーム学校」を構築する。 (2) 防災意識の醸成や、緊急時の対応力の育成を図る。	(1) 業務の改善を検討するとともに、主体的に参加できる事故防止会議を企画する。また、あらゆる場面で相互啓発活動を継続し、教職員の「意識」に呼びかける。	(1) 事故・不祥事ゼロプログラムを計画通り実施できたか。	(1) 事故・不祥事ゼロプログラムを計画通り実施できた。また業務環境の検討・整備を進めることができた。	(1) 円滑な業務遂行のためにマニュアルの整理が必要である。	・事故不祥事防止に向けて取り組んでいる様子が伺える。	(1) 事故・不祥事防止に向けて取り組むことができた。一方でヒヤットとする場面もあったことから課題とした。	(1) 引き続き事故不祥事防止に向けて職員意識を徹底する。	
				(2) 防災訓練の充実と実用的で分かりやすい防災マニュアルの見直しを行う。	(2) 最新の学校防災活動マニュアルに更新し、防災意識や対応力の育成ができたか。	(2) 最新の防災マニュアルに更新し、防災備蓄品の充実を図った。また防災訓練や PTA 広報誌に防災特集を掲載するなど、生徒、保護者、職員の防災意識の醸成が図れた。	(2) 防災の視点から校舎内外の危険個所の把握等を学校全体で取り組むことにより、非常時への対応力を強化していきたい。	・災害時の緊急対応について取り組んでいることが伺える。	(2) 防災マニュアルを見直し、防災備蓄品を充実した。PTA 広報誌に防災特集を掲載し生徒、保護者の防災意識を醸成した。	(2) 地域と連携した防災体制を検討する。	